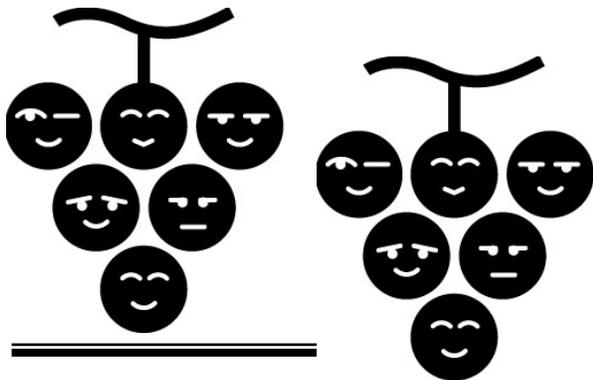


組合活動啓発のため、組合員以外の皆様にもお届けしています。



# マスカット

2011年度 第2号 (2011.11.18 発行)

## 1. 2011年岡山大学教育学部職員組合の活動について

### (1) はじめに

未曾有の被害をもたらした東日本大震災と東京電力福島原発の事故は、我々にいくつかの教訓を残しました。第一は、100年に一度あるいは1000年に一度の災害も明日起きるかもしれないということです。決して、それは「想定外」の一言で済まされるものではありません。第二は、便利さや豊かさを求める一方で、私たちが見落としていたものがあつたということです。私たちは肝心なことをうっかり見落としていたのではなく、あえて見ようとしていなかったのかも知れません。経済を優先するあまり、生きていくうえで何よりも大切であるはずの安心できる生活環境を守ることが忘れられていました。今、復興に向けて日本社会全体が少しずつ歩み始めていますが、今回得た教訓を忘れることなく一步一步進んでいくことが大切ではないでしょうか。

震災以後、復興に向けて日本全体がまとまっていこうとしていることは悪いことではありません。そのために、日本国民全体が少しずつ負担や苦勞を分かち合うことも必要だと思います。しかし、そのような動きに合わせて私たちの権利が必要以上に奪われたり、侵害されたりすることはあってはなりません。震災で大変な被害を受け今でも辛い生活をおくられている人々がいらっしやる中で、直接の被害を受けていないものは権利を主張しにくい雰囲気があることは否定できませんが、このような状況であるからこそ組合が本来の役割をしっかりと果たしていくことが大切になると感じています。

特に、現在「国家公務員給与臨時特例法案」による給与削減が大きな問題となっています。国家公務員給与の平均0.2%の削減を決めた人事院勧告の実施は見送られることになりそうですが、特例法案が成立すれば、本給で5～10%、期末勤勉手当は一律10%の引き下げとなります。全国大学高専教職員組合は、この法案に反対するとともに、国立大学等教職員への波及に強く反対しており、教育学部職員組合としても強く反対していくつもりです。

教育学部職員組合の直面しているもう一つの大きな問題は、組織力の低下です。これまで長く組合活動に取り組んでこられていた先生が退職される一方で、新しく来られた先生方の組合への加入が思うように進まず組合員数は減り続けています。このような状態が続けば教育学部の自治、職場環境・労働環境の悪化を招きかねません。新規組合員を獲得し組織力を強化していくことが、喫緊の課題となっているのです。

### (2) 活動方針

#### ①大学の自治の担い手として活動する

学外の政治勢力等から圧力を受けることなく、大学が主体的に運営・管理されることは研究や教育をするうえでの大前提です。また、研究や教育などの活動も外からの干渉を受けないよう学問の自由が保障されなければなりません。しかし、教授会において審議事項が極端に少なくなっていることに象徴されるように、最近では、あらゆるものが構成員の合意という手続きを取ることなく決定されています。法人化後、学長に経営と教学の両方の権限が集中したことからある程度は仕方がないこととはいえ、このような状況が常態化することには問題があります。組合は、適切な大学運営がなされるようしっかりと監視の目を強めていきます。

## ②労働条件の改善

東日本大震災の原発事故をきっかけに、全国的に節電が注目されるようになりました。この夏、本学においても冷房の設定温度が厳しく管理されていましたが、その結果、冷房をかけながら窓をあけて、何台もの扇風機をつけるという奇妙な風景が学内のあちこちで見られるようになりました。この冬も、暖房温度は厳しく管理されるでしょう。実質を伴わない形式的な数値目標を達成することだけが目指され、職員の労働条件がどんどん悪化することがあってはならないと思います。勤務評価によって業績アップを求めるのであれば、それに見合う適切な労働条件を保障することを、組合としてしっかりと要求していきたいと思っています。

## ③組合の組織拡大・組織力の強化

法人化後、組合の必要性や役割は高まってきたはずですが、組合員数は順調に増加しているとは言えません。教育学部においても、組合員数は増えるどころか減り続けており、組織力の弱体化は否定できません。特に新しく着任された若い方の組合加入が、思うように進んでいないことが問題です。組合員数を増やすための活動を地道に続けるとともに、懇親の場などを通して非組合員にも開かれた組織とし、多くの方に組合活動の必要性を理解してもらえようようにしたいと思います。

## ④広報活動の充実

月に一度、岡山大学の職員組合の執行委員会が開催されています。会議は2時間余りに及び、学内で生じている教職員の労働条件を巡る様々な問題や、全国の大学の状況などについて意見交換を行っています。また、それに合わせて教育学部の組合の執行委員会も開催しています。これらの議論の内容については、広報誌を通じてしっかりと組合員の皆さんにお伝えしていく予定です。

## ⑤文化・レクリエーション活動の充実

組合の予算は決して潤沢ではありませんが、組合員の福利・厚生の実現に向けて、皆が集い喜びと楽しみを分かち合える文化・レクリエーション活動を企画していきたいと思っています。その第一弾として、夏にはビア・パーティーを開催し、組合員だけではなく多くの非組合員の方々にも参加していただき、教員と事務職員の懇親も深まったよい会となりました。各単組において様々な文化・レクリエーション活動が行われておりますが、教育学部における同種の活動への参加者数の多さは、他とは比べ物になりません。これは、教育学部の教職員のつながりの強さを表していると思います。このような教育学部の良さを維持することに組合は少しでも貢献していきたいと考えています。

## ⑥連合体及び他の単体との連携強化

連合体と各単体との連携を密にし、給与削減などの問題に対して協同して取り組んでいくことは今後一層必要になってくると思われます。連携協力関係の強化に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

また、単組の枠を超えた文化・レクリエーション企画の開催なども構想されていますので、教育学部単組もそのような新たな試みには積極的に関わっていきます。

## ⑦教員のメンタルヘルス・人権相談

この10年で大学を取り巻く状況は大きく変化したということに、異論を唱える方はまずいないでしょう。それに伴い、大学の教員に対するイメージも大きく変わってきたようです。研究室にこもって自分の研究に専心するという大学教員に対する印象は、今や過去の遺物といってもよいでしょう。多くの先生方が会議や書類作成に追われ、自分の研究の時間を確保することもままならないのが現状ではないでしょうか。そのような状況の中で、理想と現実のギャップからストレスを感じている方は少なくないと思います。個々の組合員の心の問題の解決に組合が直接かかわることはできませんが、その解決の支援に少しでも貢献できるような活動を考えてまいりたいと思います。